

第3分科会 社会科教育（中学校）

思考を深め、表現力を高める授業実践のあり方

—言語活動に重点を置いたとりくみを通して—

1. 設定理由

現行の中学校学習指導要領解説社会編では、「思考力・判断力・表現力等を育むため言語活動の充実を図ること」を求めている。また、言語活動は学習課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を高めるための手段ということもいえる。したがって、本支部では、これらの活動を実際の授業に組み込んでいくことが、生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成することにつながっていくと考えている。

本支部では9年前から言語活動に重点を置いた授業実践を共通の課題とし、組織的・継続的にとりくみながら、思考力や表現力の育成を目指してきた。言語活動は思考力・表現力を育成する有効な手立てであるという考えに立ち、より効果的な言語活動の実践を目指すべく、本研究テーマを設定したものである。

2. 研究仮説

話し合い活動を工夫することで、生徒が多様な意見を取り入れ、深く思考することができるようになるであろう。

3. 研究内容

○話し合い活動を取り入れた授業実践から、成果と課題を探る。

- ① 社会科部会でのレポートをもとにした意見交換を行う。
- ② 検証のための授業を実施する。
- ③ 生徒の変容をまとめる。

4. 結論

○話し合い活動を通して、自分の意見をうまく相手に伝えようとする生徒が増えた。

○話し合い活動を通して、自分以外の考えに触れることができ、そこから思考の深まりが見られた。

○「ランキング付け」を取り入れることで、生徒は意欲的に根拠を考え、深まりのある授業になった。

1 研究テーマ

思考を深め、表現力を高める授業実践のあり方
—言語活動に重点を置いたとりくみを通して—

2 テーマ設定の理由

(1) 学習指導要領との関わり

現行の中学校学習指導要領解説社会編では、「思考力・判断力・表現力等を育むため言語活動の充実を図ること」を求めている。また、中央教育審議会答申（平成20年1月）は、社会科における言語活動として、①「読み取り」……地図や統計など各種の資料から必要な情報を読み取ること。②「解釈」……社会事象の意味、意義を解釈すること。③「説明」……社会事象の特色や事象間の関連を説明すること。④「論述」……社会事象についての自分の考えを論述すること、の4つを挙げている。また、言語活動は学習課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を高めるための手段ということもいえる。したがって、本支部では、これらの活動を実際の授業に組み込んでいくことが、生徒の「思考力・判断力・表現力」を育成することにつながっていくと考えている。

本支部では、言語活動に重点を置いたとりくみを通して、思考を深め、表現力を高める授業を目指すべく、本研究テーマを設定したものである。

(2) 東総支部中学校社会科部会のこれまでの研究との関連

本支部では9年前から言語活動に重点を置いた授業実践を共通の課題とし、組織的・継続的に取り組みながら、思考力や表現力の育成を目指してきた。

《東総支部社会科部会のこれまでの取り組み》

年度	研究テーマ（サブテーマ）
2008～2010	思考力・判断力・表現力をより深めるための授業実践のあり方 （キーワード学習を通して）
2011	思考力をより深め、表現力を高めるための授業実践のあり方 （身近な資料の活用と予想を立てた授業を通して）
2012～2017	思考を深め、表現力を高めるための授業実践のあり方 （言語活動に重点を置いたとりくみを通して）

2012年度からは、「書く活動」に加えて「話す活動」にも重点を置き、言語活動の幅を広げてきた。昨年度は、「聞く」「話す」活動を、「話し合う」活動として、言語活動や表現活動に結びつけることを目指すべく、研究テーマに迫った。

また、昨年12月に公表された国際学習到達度調査（PISA2015）の結果から、現在の日本の子どもたちの「読解力低下」が浮き彫りになった。こうした問題を受け、2020年から始まる次期学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められることになる。「読解力」は、「思考」や「表現力」と密接に関連するものである。思考が深まった結果が読解力につながり、読解力を高めると思考が深まり、表現力が豊かになるとも言える。

以上のことを踏まえて、今年度は昨年までの研究を継続しながら、言語活動を通して思考を深め、表現力を高める授業実践の方法を探ろうと考えた。

(3) 社会科における思考力・表現力

本支部社会科部会では、思考力・表現力について、次のような共通理解を図った。

①「生徒の思考が深まる」

- ・社会的事象への意見を、根拠づけて話すことができる状態
- ・他の意見を参考にし、既習事項を再構成することができる状態
- ・他の意見をより追求をすることができる状態

②「生徒の表現力が高まる」

- ・工夫して相手に伝えようとしたり、まとめようとしたりしている姿勢や行為
- ・相手に伝えやすくノートやレポートにまとめることができたり、重要語句や学習課題を決められた字数や時間で的確にまとめたりしている状態



言語活動を実践の中に組み込むことで課題を意欲的に解決しようとしたり、相手にわかりやすくまとめようとしたりするというような学習活動の具現化を図ることを共通の課題としている。

3 研究仮説

単元のまとめにおいて話し合い活動を工夫することで、生徒が多様な意見を取り入れ、深く思考することができるようになるであろう。

4 研究内容

(1) 研究の進め方

- ①話し合い活動を取り入れた授業実践の指導案やレポートを持ち寄り、どのような話し合い活動の工夫があるのか協議する。
 - ・社会科部会でのレポートをもとにした意見交換
- ②検証のための授業を実施する。
- ③生徒の変容をまとめる。

(2) 研究の実践

- ①話し合い活動を取り入れた授業実践の指導案やレポートを持ち寄り、どのような話し合い活動の工夫があるのか協議する。

＜社会科部会の協議より＞

一昨年度の研究から、話し合い活動の時間の確保が難しいという課題が出たため、昨年度より、話し合い活動を毎時間ではなく、単元の最後のまとめの時間に行うようにした。また、スタンディングデスクやフリースーク、エキスパート活動、ランキング付けなどといったさまざまな手法や思考ツールを情報共有し、各学校に持ち帰って授業に取り入れるようにした。

成果

単元のまとめの時間に話し合い活動を行うことで、ある程度の知識が身に付いた上で話し合い活動を行うことができるので、身に付けた知識を踏まえての社会的事象に対する深まりが見られた。また、班編成についても「3～4人程度を1グループとすることで、活発な話し合い活動が行われた」という昨年の研究結果を踏まえて、1グループ3～4人という班編成での話し合い活動を行うことで、実際にグループの中で「共感」「学び合い」「自分の言葉でまとめて説明する」というような活動が見られた。

課題

教師からテーマを与えてしまった。

「教師からの呼びかけになってしまい、教師主体のテーマになってしまう」など、このようなテーマを設定してしまうと、話し合いが進まず、学習内容をあまり深めることができないこともあった。

↓方策

課題やテーマ設定のための準備（生徒の実態把握、既習事項の確認、興味関心を持てる学習課題の設定、思考ツール等の活用）が必要であると考える。

「話し合い活動」が、「目的」になってしまった。

「話し合い活動」の目的は、知識や技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力」を養うことである。ただ単に「自分の意見を発表・友達の意見を聞く」という「活動ありき」の学習になることのないように留意することが大切である。

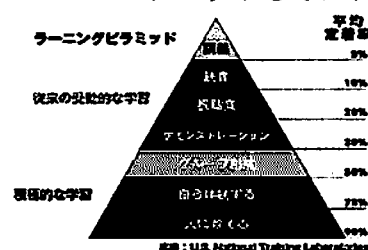
↓方策

生徒が「考え・議論する⇒思考を深める」学習課題の設定が必要である。当たり前のことだが、考えなくても（見れば）、すぐに答えを導き出すことができる「発問」ではなく、考えないと（見ても）、答えが導き出せない「発問」を教師側も用意をして、生徒に話し合い活動を行わせるようにしたい。

また、右のグラフは、アメリカでの研究結果をまとめたラーニングピラミッドと呼ばれるものである。「講義型・視聴型」より「主体的対話的学習」が知識の定着が高いことがわかる。また、話し合い活動を有効活用する場合、「人に教える」「グループ討論」

「デモンストレーション」などが考えられる。

これらを踏まえて、自分の意見や考えを発表し合って、最終的にグループで考えをひとつにまとめることで、知識や技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力」を養うことができると考える。



②検証のための授業を実施する。

- ・グループ編成の工夫（1グループ3～4人、授業内容によって同意見同士、他意見同士のグループ編成）
- ・学習課題の工夫（興味関心を持たせるために、ランキング付けや身近な地域を学習課題にした）
- ・ICTの有効活用（資料提示や発問に利用することで、思考力・発想力を掘り起こす）

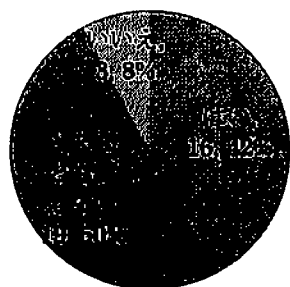
1 単元名 2年生<地理> 「日本の諸地域ー関東地方ー」

2 指導計画（8時間）

指導項目	生徒の学習活動	言語活動
導入として、関東地方の映像を観る（1時間）	NHK for school の関東地方のビデオクリップや動画の視聴。 ・ 関東地方はどのような産業がさかんなのかを理解し、ノートにまとめる。	書く活動
「関東地方」についての授業（5時間）	基礎・基本の定着。 ・ 関東地方の土地・人口・産業についての学習。 ・ 土地・人口・産業の特徴を知るだけでなく、雨温図の読み取り方など、基礎・基本の内容も確認する。	書く活動 書く活動
「関東地方」のまとめ（2時間：本時） ※2時間目は特別単元	旭市の野菜づくりがさかんな理由をランキング付けして、グループ内で発表し合う。 旭市(現在5位)が野菜出荷額全国1位(現在銚田市)になるための方法を考え、自分の言葉でまとめる。	話し合い活動 話し合い活動 書く活動

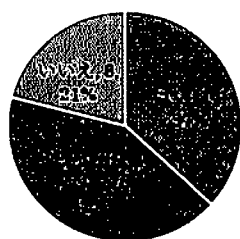
3 生徒の実態（旭市立第二中学校 2年2組 男子20名 女子18名 計38名）

1 社会は好きですか。

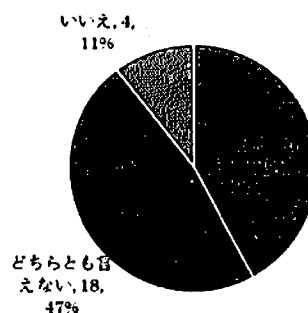


回答	理由
はい	・歴史は昔のことを知ることができて楽しいから。 ・地理は世界や日本のことを知ることができるから。 ・授業が楽しいから。
どちらとも言えない	・歴史は好きだが、地理は嫌いだから。 ・楽しいけど、難しいから。
いいえ	・難しいから。 ・苦手だから。

2 ノートを書くことは好きですか



3 授業での話し合い活動は好きですか。



生徒は、休み時間などは活発に活動をしているが、授業では落ち着いた態度で受けることができていない。2年に進級時にクラス替えをしているので、人間関係の構築がまだうまくできていないが、比較的話し合い活動が好きな生徒が多い。しかし、グループでの話し合い活動では、スムーズに進まないグループが多く、進んでいるグループにおいてはワークシートにまとめた言葉を見ても、学習した内容や知っていることを並べているだけになってしまっていて、深まりが足りないと感じる。話し合い活動を充実させ、思考を深めさせていきたい。

4 展開

時 配	学習活動（生徒発言・活動） Q：発問	指導・支援の手立てと配慮事項 ◎評価〔方法〕	資料
5	【見出す】 (1) 旭市の作物が出荷されるVTRを視聴し、出荷先に関心を持つ。 (2) 旭市の農業に関するクイズに取り組み、なぜ農業が盛んなのか関心を高める。 Q：旭市で全国順位1番の作物は何でしょうか？ Q：旭市は野菜出荷額で全国何位でしょうか？ Q：千葉県は都道府県別野菜出荷額何位でしょうか？	・関東地方の授業を一通り終えたことで、以前よりも知識が増えていることに気付かせ、自信を持たせるようにする。 ICTを活用することにより、思考力・発想力を掘り起こす。	iPadのデータ PCのパワーポイント
千葉県旭市ではなぜ野菜作りが盛んなのだろうか			
25	【調べる】 (1) 学習課題について予想する。 ・地形が農業に適している。 ・気候が農業に適している。 ・東京に多く出荷している。など (2) 個人で旭市の雨温図、主要作物、農業出荷額、出荷先、出荷日の資料をもとに、なぜ、旭市では農業が盛んなのかを考える。その際に地形、気候、交通のうち、大事な順番にランキングをつけ、その理由を考える。	【関心・意欲・態度】 ◎千葉県旭市の農業の特色に関心を持ち、学習に積極的に取り組もうとする。〔ワークシート〕 ・野菜を主に作り、近くの消費地で販売する近郊農業の特徴に気づくように助言する。 ・教科書の資料以外に、旭市の雨温図、農業出荷額、主要作物、主な出荷先、出荷日の資料を提示する。 ランキングを付けさせることで、興味・関心を持たせる。	ワークシート 発表の仕方を書いた紙 旭市の雨温図、農業に関する資料

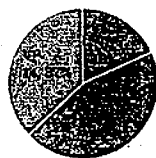
	(3) ランキングの1位が同じ意見同士でグループ編成する。(1グループ3～4人編成、リーダーも決める。)	・リーダーを中心に全員の意見を聞くように励ます。 ・あらかじめ発表の順番と手順を示す。 ①頭ごなしに否定しない。 ②発表中は無駄話をしない。 ③意見を言いやすい雰囲気作り。 ④グループはコの字の隊形にする。	
10	【深める】 班内で1位の項目の理由を発表する。 ・地形 平坦な地形が農業に適している。 ・気候 温暖で降水量も多い気候を生かしている。ビニールハウスなども活用している。 ・交通 東京に近く、当日や次の日など、収穫してから販売までの時間が短いので新鮮な野菜を送ることができる。東京に近いので輸送費用が安い。	【思考・判断・表現】 ◎様々な資料を比較して農業が盛んな理由を思考し、自分の意見を書き、グループ内にわかりやすく表現することができる。 〔観察〕〔ワークシート〕 ・個人の付箋をホワイトボードに貼らせて班での意見をまとめる。 ・1位のみの項目と理由を発表させる。 ・3つの要因が重なって、旭市の農業が盛んなことに気づくように助言する。特に交通面での要因が大きく、近郊農業の特色を強調する。	ワークシート
10	話し合い活動で友人の意見を参考にし、既習事項を再構成することで、思考を深めることができる。 【まとめあげる】 旭市のJAにインタビューしたVTRを視聴し、その後「旭市の農業はなぜ盛んなのだろうか」というテーマのもとに自分の言葉でまとめる。	【技能】 ◎なぜ旭市は農業が盛んなのかを自分の言葉でわかりやすくまとめることができる。〔ワークシート〕	i P a d のデータ
時配	学習活動（生徒発言・活動） Q：発問	指導・支援の手立てと配慮事項 ◎評価〔方法〕	資料

5	【見出す】 前時の確認をする。 Q：旭市は野菜出荷額で全国何位でしょうか？	・前時で学習したことを、口頭で発表させる。	ワークシート
旭市が野菜出荷額において、市町村全国1位になるためにはどのようにすれば良いのだろうか。			
25	【調べる】 (1) 学習課題について予想する。 ・土地を改良すれば良い。 ・広告を増やせば良い。 ・道路を作れば良い。など (2) 前時の3～4人班で、予想を発表し合い、他の意見もあることに気づく。 (3) 班で農業に関する資料やPCを活用して、旭市が1位になるためにはどのようにすれば良いかを話し合いながら調べる。 話し合い活動で友人の意見を参考にし、調べ学習も活用することで、思考を深めることができる。	【関心・意欲・態度】 ◎地元である旭市の野菜作りが全国1位になるために必要なことを積極的に考えようとする。 〔ワークシート〕 ・旭市が全国第5位で茨城県鉾田市が第1位であることを確認する。 ・リーダーを中心に全員の意見を聞くように励ます。 ・順番と手順は前時に準ずる。 I C Tを活用することにより、思考力・発想力を掘り起こす。 ・全国1位の鉾田市と旭市の三要素（交通・土地・気候）を比較して、考えさせる。	ワークシート 生徒用ノートPC 農業に関する資料
10	【深める】 調べたことを班ごとに用紙にまとめ、全体で発表をする。 【まとめあげる】 各班の発表を聞いて、班の話し合いでわかったことや発表を聞いて新たにわかったことを自分の言葉でまとめる。	【思考・判断・表現】 ◎資料を比較して、1位になるために必要なことを思考し、自分達の意見も書き、全体にわかりやすく表現することができる。 〔観察〕〔A3用紙〕 【技能】 ◎旭市が野菜出荷額で全国1位になるために必要な方法を自分の言葉でわかりやすくまとめることができる。〔ワークシート〕	A3用紙 ワークシート

③生徒の変容をまとめる。(調査人数38名：男子20名、女子18名)

A 話し合い活動による、思考の深まりと表現の高まりの変化。

日頃の授業で相手に伝えやすく工夫して意見や考えをまとめているか。(授業前)



どちらとも言えない、17、45%

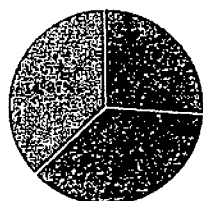
相手に伝えやすく工夫して意見や考えをまとめることができたか。(授業後)



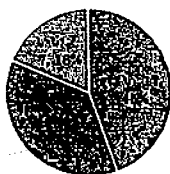
どちらとも言えない、13、39%

回答	理由
はい	・周りの人が見ることを考えているから。 ・復習にも役立つから。 ・しっかりと調べられたから。
どちらとも言えない	・自分の意見をまとめるだけで伝えやすく工夫することは難しいから。 ・時間に焦ってまとめることがあったから。
いいえ	・レポートをすることで精一杯だから。

他の人の意見を聞いていますか。(授業前)



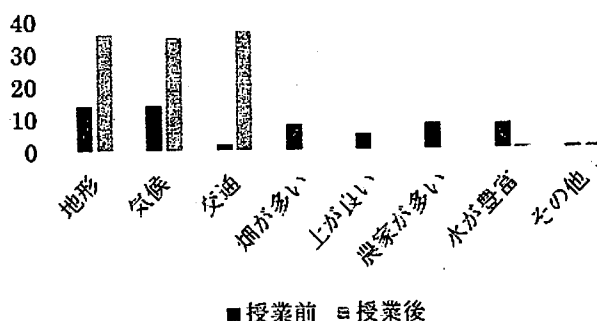
他の人の意見を聞いて自分の意見以外のことを知ることができましたか。(授業後)



どちらとも言えない、14、37%

回答	理由
はい	・他の意見を聞いて違う見方ができるから。 ・自分と違う意見を聞くと参考になったから。
どちらとも言えない	・他の考えを知ることはできたから。 ・同じ意見が多かったから。
いいえ	・自分以外の時は集中できないから。 ・声が聞こえにくかったから。

視点の変化



授業前の予想では旭市の農業が盛んな理由を1つしか書いていない生徒が多かった。交通面を書いた生徒は数人であった。しかし話し合い活動をした授業後はほぼ全ての生徒が交通・気候・地形の3つの視点を書くことができていた。これはこの授業を通して、視点の変化が見られた結果であると考えられる。

B 生徒のワークシートによる変容

生徒A 話し合い前

地面が平らで、野菜が作りやすいから。

話し合い後

旭市は、大消費地の近くなので、野菜作りが盛んである。気候や地形、交通の中では、一番「交通」が大事である。
旭市は、気候がよく、雨が多い。地形が平らで関東ローム層がある。東京から近くしんせんなままとどけられる。

生徒B 話し合い前

農業の仕事をしている人が多いから。

話し合い後

旭市は、交通によって、野菜作りが盛んになった。千葉県は、近郊農業で、野菜を早く出荷することが出来るから。
気候が温暖で降水量が多く平らな地形や関東ローム層が農業に恵まれている。東京から近く新鮮な野菜を届けることが出来る。(交通)

視点が深まった生徒の例 (新たな視点が生まれた生徒)

調べ学習後 生徒C

旭市は、金沢市よりも耕地面積が少ないから、もっと面積をふやすことをすれば第1位になれると思います。

旭市は気候は温暖で土地が平らなので土を良くしたいなあが
いいと思います。1位の銚田市はEM菌というのを土に混ぜて
います。旭市もこのようなことをすれば第1位になれると思います。

一回目の授業後のレポートは多くの生徒がAとBの生徒のように視点が増えていた。

二回目の授業後のレポートは調べ学習後に交通、気候、地形以外の新たな視点に気づくことができた生徒がCやDの生徒のように15人気づくことができたので、思考が深まったといえるであろう。

6 結論

成果

- 話し合い活動を通して、自分の意見をうまく相手に伝えようとする生徒が増えた。
- 話し合い活動を通して、自分以外の考えに触れることができ、そこから思考の深まりが見られた。
- 「ランキング付け」を取り入れることで、生徒は意欲的に野菜作りがさかんな理由を考えていたように思う。また、特別単元として「旭市が野菜出荷額1位になるために」を調べたり考えたりすることにより、より深まりのある授業になったと思う。
- 学習課題に対しての考えやわかったことなどを、文章にまとめたときに文字数だけでなくより詳しい内容になったということは、話し合いによって思考が深まり、表現力が高まったと考えられる。自分以外の考えに触れたことで、考えが変わったり再構成されたりしたものだと考えられる。
- 自分の考えに対する根拠となる視点が増えた。他の考えを踏まえて判断することができ、思考の深まりが見られた。例えば、ランキングで1位の理由は根拠づけてよく考えることができるが、自分にとって2位や3位の要素が他の人にとっての1位の場合もあり、その根拠を聞くことによって、自分の根拠をより深まったものにできる。

課題

- 「ランキング付け」の1位が同じ生徒でグループを作ったが、同じ意見同士では思考や学習内容の深まりが見えにくいところがあったので、違う意見同士で話し合いをした方がより深い話し合いになったと感じた。
- 旭市について触れると生徒は地元に対する気持ちが高いので、意欲的にとりくむことができるが、ランキング後はさらにテーマを与えて「他市よりもどのような有利な点や不利な点があるのか。また、どのような工夫をしているのか。」ということに気付かせるようにすべきであった。
- 2年生の地理的分野・関東地方のまとめとして扱ったが、2時間目の特別単元に関しては、新たな視点「銚田市はなぜ野菜出荷額が市町村1位なのか」を考えさせた方が、前時で習った旭市を比較対象とし、より深い学びになると思った。